

## 第3回 第2部会における委員意見一覧

No.	部門	委員によるご意見
1	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(角野委員) 災害時においては、最終的に市民一人ひとりのスキルが重要になると思うので、市民の防災力の向上について、もう少し方向性を出した方がよいのではないかと。
2	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(後閑副部長) 「防災」部門の取り組みには、環境整備等に関する「ハード」の視点と、市民意識等に関する「ソフト」の視点、また、それを結びつける「システム」といったような視点が混在しているように思うので、それらを整理することで、役割分担も明確になるのではないかと。
3	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(吉川部長) 「防災」部門の取り組みの分類の仕方としては、「ハード」・「ソフト」等の視点のほか、「自助」・「共助」・「公助」の視点、「平常時」・「災害発生時」等の時間軸の視点などがあると思う。全体を目配りした上で、整理する必要がある。
4	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(富岡委員) 日本の若者世代は人に迷惑をかけないということに関しては意識が高いが、人を助けたりするといったようなボランティア精神については少し劣っている。このため、その部分を育てていくための働きかけなどの視点も重要になると思う。
5	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(橋本委員) 防災力を向上していくには、情報を共有することが重要になると思う。個人情報保護の観点など壁となる部分もあるが、情報共有の視点を記載してもよいと思う。
6	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	(谷本委員) 「行政の主な取り組み」の欄に、「災害時における非常通信体制の強化」とあるが、近年、情報インフラの整備が進み、スマートフォンやタブレットなど様々なツールがあるので、そうした視点を記載してもよいのではないかと。

No.	部門	委員によるご意見
7	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	<p>(嶋田委員) 「部門別の取り組み進捗状況一覧」にある施策指標のうち、ハード整備の指標は目標値を達成しているものの、「自主防災組織が年1回以上の訓練を行った割合」については順調に推移しておらず、市民へ働きかけて行動を起こしてもらうことには壁があるように思う。これを促すものとして、地域防災推進員の育成があると思うのだが、今後のことを考えると若年層の育成が大切になってくると思う。この地域防災推進員はどのような年齢構成になっており、どのように選定されているのか教えてほしい。年齢に応じた防災意識の違いなどを踏まえて、市民への働きかけにつなげていけばよいのではないかと。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 本市では全45小学校区で自主防災組織が結成されており、そうした活動を支援できる人材として、平成22年度から地域防災推進員の育成に取り組んでいる(平成26年度末時点の総数：約460人)。選定については、継続的かつ効果的な人材育成を行う観点から、主に校区コミュニティ協議会等に対し人選をお願いしている。また、より幅広く人材育成を行う観点から、平成24年度から広報誌等での募集も行っている。年齢構成については、平成25年度の申し込み時から年齢確認を行っており、推進員全体の正確な構成は把握できていないが、平成25年度以降の推進員の約80%は50歳以上(約65%は60歳以上)となっている状況である。</p>
8	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「生活安全」	<p>(谷本委員) 個人情報 の適正管理は、「生活安全」の部門ではなく、行政運営のところで書くことのように感じるが、ここに記載するのであれば、市民に個人情報の保護を促すような記載が必要になると思う。</p>
9	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「道路環境」	<p>(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の中に、「道路の異常箇所を発見したら速やかに通報」という記載があるが、それに対する行政の対応が明記されていない。どこまで記載するかは議論の余地があると思うが、市民ニーズの高い部門でもあるので、具体的な事業例に記載すべきだと思う。</p>
10	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「道路環境」	<p>(谷本委員) 阪神高速道路は現在、守口までとなっているが、それを枚方まで延伸してもらいたいということをここでは明記できないのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 高速道路の延伸については、国の計画に基づき進められているものであり、現在では、新名神高速道路の早期完成について働きかけを行っているところである。</p>
11	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「公共交通」	<p>(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の記載が薄いので、公共交通機関の利用を促すような内容を検討してもよいのではないかと。</p>

No.	部門	委員によるご意見
12	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「公共交通」	(後閑副部長) 公共交通機関の利用促進に向けては、バスの本数が少なかったり、路線がなかったりする地域があるが、本数や路線を増やせば、事業者の経営は厳しくなるだろう。このようなことも積極的な利用についての課題になると思う。  (吉川部長) バス路線の拡充などの課題がある一方で、国が進める今後のまちづくりの方向性として、駅周辺などの地域に公共交通を含めた都市機能を集約していくという視点もある。
13	(基本目標：健康やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「健康」「健康危機管理」「公衆衛生」「スポーツ」	(橋本委員) 部門の分け方について、こころの病気と薬物は今後ますます重要度が増してくると思うので、互いに連動するところもあり、それらを独立させて、「健康教育」などとするのもよいのではないかと。また、「健康危機管理」を「公衆衛生」と一緒にしたり、「スポーツ」を「健康」の中で取り込むなど、部門の分け方の精査が必要だと思う。
14	(基本目標：健康やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「健康」	(伊東委員) 健(検)診の受診については、講座の後に健(検)診を行うなどすれば、市民が行きやすくなるのではないかと。
15	(基本目標：健康やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「医療」	(角野委員) 若い世代に安心して住んでもらうためには、周産期医療の充実が必要だと思うが、現況として、北河内は周産期医療が弱い地域だと思うが、枚方には関西医科大学附属枚方病院などがあるので、40万都市としてこの点を打ち出していく必要があるように思う。
16	(基本目標：健康やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「医療」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」について、市民にできることとして、病院ボランティアがあるのではないかと。地域の医療機関におけるソフト面の取り組みとして、病院ボランティアの育成や充実といったことがあると思う。
17	(基本目標：健康やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「生活福祉」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」において、「民生委員」や「ボランティア団体」が主体として挙げられているが、生活福祉の問題は多岐にわたり、民生委員等の負担は大きく、抱え込みも出てくる。民生委員等に対する研修やフォローを行政で行ったり、職能団体等が支援していくといったような受け皿が必要だと思う。
18	(基本目標：健康やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「高齢者福祉」	(橋本委員) 「取り組みの方向」に、「世代間交流の場の確保」があるが、その視点の明記が薄いように思うので、例えば、「学校教育」の道徳の部分であるとか、全体的な視点で記載の検討が必要だと思う。

No.	部門	委員によるご意見
19	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「障害者福祉」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」において、主体として、「福祉サービス事業者」や「事業者」といった表記があるが、これらの違いを整理しておく必要があると思う。
20	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「障害者福祉」	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」において、事業者の障害者に対する合理的配慮があるが、事業活動だけでなく、就労の視点も重要であるため、「就労及び事業活動」などとしてはどうか。
21	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち)	(谷本委員) 「スポーツ」の部門に関する記述について、基本目標「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」のどこかに盛り込むべきだと思う。「スポーツ」は現時点では、「健やかに、生きがいを持って暮らせるまち」に分類されており、健康増進の視点で捉えることのほかに、自己の成長や生活を豊かにするといった側面もあるので、そういった観点からも検討すべきではないか。
22	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「妊娠・出産」 「子育て」	(後閑副部長) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」において、電車にベビーカーを乗せることに対して批判があったり、バスの中で妊婦に対して座席を譲らなかったりといったことが起こっており、子どもを社会全体で育てていくという視点が必要だと思う。
23	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「妊娠・出産」	(富岡委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」において、「積極的な情報収集、知識習得」、「育児手技の獲得」といった表記があるが、主体は誰を想定しているのか。また、書きぶりが他の部門と違うので整理すべきではないか。「子育てサークルへの参加」などといった記載のレベルがふさわしいように思う。  【ご意見に対する回答】(事務局) ここでの主体は、子どもの親を想定しているが、全体的に、主体が不明確な点や、他の部門との書きぶりの統一性について今後、整理させていただく。
24	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「妊娠・出産」	(伊東委員) 「子育て」部門に比べ、「妊娠・出産」部門の取り組みが薄いと思う。個人病院でも助産院でもいいが、産める場所を増やすことができれば特色になると思う。産後のケアやサポートももちろん重要だが、産前のサポートをもっと充実させてもよいのではないか。産前の支援の充実により、枚方で産もうと思ってくれる人も増えるように思う。
25	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「妊娠・出産」	(伊東委員) 具体的な事業例として、治療費用の助成などしかないので、「子育て」の部門にあるような「支援プログラム」など、もう少し産前の事業についても充実させた方がよいと思う。

No.	部門	委員によるご意見
26	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「子育て」	(角野委員) 「児童虐待」や「ひきこもり」の分野については、「取り組みの方向」の記載が抽象的で、これでは改善につながらないと思う。なかなか外側から見えな問題なので、早期発見、早期対応は相当困難だと言える。周産期からのつながりもあるし、虐待の世代としては中学生なども対象となっているので、学校教育との連携も含めて具体的な取り組みが必要になると思う。
27	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(橋本委員) 取り組みの方向で、「豊かな人間性を育む」とあるが、基本目標にも「生きていく力」とあり、「生きていく力」や「考える力」も重要だと思うので、文言を入れるなど検討してもよいのではないかと。
28	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(橋本委員) 「行政の主な取り組み」において、「学校給食の充実」が挙げられているが、この部門にも、「食育」の視点を加えてはどうか。「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」に、農業生産者による農産物の安定的な供給の記載があり、「食育」は他の部門にもあると思うが、ここでも記載してもよいと思う。
29	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(橋本委員) 「課題」の欄などに、「環境づくり」という言葉が多く使われているが、基本目標の表現についても、「生きていく力を育む教育とその環境づくりを進めます」などと追記した方が整合がとれるように思う。
30	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(橋本委員) 登下校時の事故など子どもが犠牲となる事件・事故などへの対策については、「生活安全」の部門のところで取り扱ってもよいように思う。
31	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(角野委員) 登下校時の事故など子どもが犠牲となる事件・事故への対策に関して、「生活安全」の部門のところで取り扱ってはという議論があったが、学校が必ずしも安全な場所になっていないことが大きな問題になっていることから、安全教育という視点で、この部門で打ち出す方がよいと思う。また、具体的な事業例として、通学路の危険箇所調査や学校監視ボランティア等の記載があるが、端から端までチェックできるわけではなく、子どもたちが自ら身を守るスキルが重要で、その能力を引き出すことが必要だと思う。
32	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(角野委員) 「学校教育」の部門の記載をみると、平成20年ぐらいの内容のように感じる。また、「確かな学力」、「豊かな人間性」はあるが、生きていく力として、「健康体力」に関する記述が抜けている。さらに、これまで枚方市が取り組んできた「英語教育」に触れておらず、2018年度からは小学校でも英語が正式教科になる動きが出てきていることもあり、英語教育の視点を打ち出していくべきだと思う。



No.	部門	委員によるご意見
33	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」	(角野委員) いじめ対策について、大阪府や各市では審議会の設置やプログラムの作成などの具体的な対策がとられてきている。課題の中で、「社会全体で子どもたちの生きていく力を育む環境づくり」とあるが、いじめや不登校などの問題のほとんどは、家庭と学校に起因している。また、具体的な事業例で挙げられているのは、全て教育委員会が担っているため、「取り組みの方向」において、「学校・家庭・地域・関係機関が連携を図りながら」という表記も違和感がある。学校のことを考慮して住まいを移動する人もいるので、「学力」のほか、広い意味での「安全」を打ち出していくべきだと思う。
34	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「学校教育」「文化芸術」	(伊東委員) 子どもが自分の身を守ることにに関してだが、市民ワークショップでは、古武術を取り入れてはどうかという意見があった。小さい力で大きな相手に対応できるというところがある。また、中学校でヒップホップダンスを取り入れるところがあるみたいだが、外国の踊りを入れる前に、河内踊りなど住んでいる地域のものを取り入れた方が特色を打ち出せるのではないかと。枚方市は他市に同調している傾向があると聞くので、独自の特色を出していく必要があると思う。
35	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「文化芸術」	(嶋田委員) 「高齢者福祉」の部門で、「取り組みの方向」に、「世代間交流の場の確保」とあるが、どのように場をつくっていくのかが課題と感じており、昔ながらの今の子どもたちが知らないもの、又は知っているものをツールにして、高齢者世代と共有していくことになると思う。例えば、河内音頭に注目すれば、八尾市が注目されていたり、柏原市では高齢者の健康プログラムに河内音頭を取り入れていると聞いている。しかし、河内音頭は枚方が発祥という説もあるので、強く打ち出せる要素を持っているといえる。地元枚方の文化をツールにして、世代間交流を促進していくことも必要ではないか。
36	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「生涯学習」「文化芸術」「歴史文化遺産」	(吉川部会長) 「子育て」や「学校教育」の部門については多くの項目が挙げられている一方で、「生涯学習」や「文化芸術」、「歴史文化遺産」の部門については記載が薄い。都市の魅力を生むという点から考えると、このあたりがもう少し出てこないといけないように思う。
37	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「文化芸術」「歴史文化遺産」	(橋本委員) 「文化芸術」と「歴史文化遺産」の部門はひとくくりにしてもよいのではないかと。あまりに部門が細かくなりすぎると、縦割りの印象が強まり、逆に大きな枠組みにしておけば、施策の連携も柔軟に示せるように思う。「基本計画」では大きな枠組みで捉えて部門を再整理し、下位の実行計画などでより細分化していけばよいと思う。
38	部門共通	(橋本委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」において、誰がするのかという主体が不明確な箇所がある。主体を明確化した方がわかりやすいと思う。

No.	部門	委員によるご意見
39	部門共通	<p>(谷本委員) 各部門間には様々な関連性があるので、難しいかもしれないが、他部門との関連を資料で示すことができればわかりやすいと思う。</p>
40	部門共通	<p>(橋本委員) 例えば、「子育て」、「学校教育」の部門では、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の欄は多くのことが書かれ過ぎており、カテゴリ一別に分類してきれいに並べるなど、読みやすいデザインにする工夫が必要だと思う。</p>
41	部門共通	<p>(橋本委員) 「左欄の具体的な事業例」の欄だけ書体が違うが、これには意味があるのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) この欄の内容については、「基本計画」ではなく、「実行計画」に挙げるような事務事業の内容を記載しているので、書体を分けているものである。</p>